

令和3年度
自己点検評価書
[自己点検・評価委員会]

令和4（2022）年9月
大阪人間科学大学

目 次

基準	タイトル	頁
基準Ⅰ	アドミッション・ポリシーにおける評価・点検（入試委員会）	1
基準Ⅱ-1	カリキュラム・ポリシーにおける評価・点検（教務委員会）	2
基準Ⅱ-2	カリキュラム・ポリシーにおける評価・点検（FD・SD委員会）	4
基準Ⅱ-3	カリキュラム・ポリシーにおける評価・点検（事務局）	6
基準Ⅲ-1	ディプロマ・ポリシーにおける評価・点検（入試委員会）	7
基準Ⅲ-2	ディプロマ・ポリシーにおける評価・点検（教務委員会）	8
基準Ⅲ-3	ディプロマ・ポリシーにおける評価・点検（キャリア開発委員会）	10
	エビデンス一覧	11

基準 I	アドミッション・ポリシーにおける評価・点検（入試委員会）
------	------------------------------

◆評価基準

- ① アドミッション・ポリシーが明文化され、公表されている
- ② アドミッション・ポリシーに基づいた入学者選抜が実施されている
- ③ 選考要項が整備され、公表されている

◆自己点検評価（該当数字を○で囲む）

- ①: 基準を全て満たしている
- 2: 基準を概ね満たしている
- 3: 基準を満たしていない

◆自己点検評価結果の理由

- ①アドミッション・ポリシー（以下 AP）については、「大学案内」「ホームページ」「学生募集要項」等において「求める学生像」「高等学校で身に付けておくことが望ましい素養と履修すべき科目」「各学科・専攻の求める学生像」を掲載し周知している。
- ②入学者選抜においても AP に合致する学生を受入れるための選抜方法を設定している。面接試験を課す入試では AP に関連した内容の質問を行い、AP を理解できているかを確認している。
- ③選考要項については、すべての入試種別について学生募集要項として冊子等にまとめ公表している。

◆自己点検評価結果のエビデンス

1. 大学案内、ホームページ、学生募集要項
2. 学生募集要項
3. 令和4年度入試結果

◆自己点検評価結果における課題と対応

令和3年度に実施した入学者選抜においては、AP を明文化・公表し、AP に適した入学者選抜を実施した。また、募集要項についてもすべての入試種別について、志願者等が必要な情報に容易にアクセスできるよう、冊子にまとめ配布するとともに、HP 上に公開し周知している。

基準Ⅱ-1	カリキュラム・ポリシーにおける評価・点検（教務委員会）
-------	-----------------------------

◆評価基準

- ① カリキュラム・ポリシーが明文化され、公表されている
- ② カリキュラム・ポリシーに適している教育が実施されている
- ③ IR 情報を利用した教学マネジメントが実施されている

◆自己点検評価（該当数字を○で囲む）

- ①: 基準を全て満たしている
- 2: 基準を概ね満たしている
- 3: 基準を満たしていない

◆自己点検評価結果の理由

①ディプロマ・ポリシーを具体化するために、教育課程編成方針を「カリキュラム・ポリシー」として定め、学生便覧やホームページに明示している。

②教育課程は大きく、全学共通の「基礎科目」と、それぞれの学科の「専門科目」から構成される。基本的には、「基礎科目」で対人援助の専門職業人となるべき基礎を固めた上で、「専門科目」で専門職となるための知識・技術を専門的に学ぶという形になる。また、学科ごとにカリキュラムマップの作成も行い、それぞれの科目がディプロマ・ポリシーのどの要素と関連しているかを明確にしている。併せてカリキュラムマップ上のそれぞれの科目にはナンバリングを付して、4年間の学びのルートを明らかにするとともに、各学科において「履修モデル」を作成し、「ユニバーサル・パスポート」上で学生に公開している。令和4年度入学生に向けては学びの体系をよりわかりやすく示すことができるように基礎科目及び全学部・学科の専門科目のカリキュラムツリーを作成し、科目間の連携について理解を促すこととした。

授業においては、全学的にシラバスにおいて、ディプロマ・ポリシーを踏まえた上での到達目標を示すとともに、教育課程における科目の位置づけが理解できるように概要の記載に留意している。また、アクティブ・ラーニングについても具体的にどのような内容で実施するかをわかりやすく示すことで、学生の主体的な学びを促している。

授業時間内には「学修ポートフォリオ（振り返りシート）」を実施している。これは、授業終了時に学生がその授業のまとめや意見等を記入し、その後担当教員がチェック・添削等した上で、翌週学生に返却するものである。前年度より新たな取り組みとして、「対人援助演習Ⅱ」において、学修ポートフォリオの電子化を図り、Google Classroomでの提出・添削を実施することで、授業時間外でも学生と教員の双方向のやり取りが可能となった。

また、新型コロナウイルス感染拡大に伴う一時的な遠隔授業の実施と学生の学修支援を行い、

教育の質の維持向上に努めた。また、後期から全学的に Wi-Fi が整備されたことにより平時において、ICT を活用した授業について検討を行った。

③IR 情報の活用については、令和 3 年度前期成績発表時より、年次別・学科別の GPA 分布図を公表し、学生個々の学修状況、学科ごとを対比した GPA を教員が把握することで学修指導に役立てられるようにした。

◆自己点検評価結果のエビデンス

1. 3 学部と各学科・専攻の 3 ポリシー
2. カリキュラムマップ
3. カリキュラムツリー
4. 履修モデル
5. シラバス
6. 学修ポートフォリオ（振り返りシート）
7. 「学修ポートフォリオ」等の利用状況調査
8. GPA 分布状況表

◆自己点検評価結果における課題と対応

ウィズコロナからアフターコロナへと状況が変化していく中、2 年間のコロナ禍で獲得してきた遠隔授業のノウハウをいかして、平時においても全学的な ICT を活用した教育の質の充実に向けた検討を進める必要がある。

基準Ⅱ-2	カリキュラム・ポリシーにおける評価・点検（FD・SD委員会）
-------	--------------------------------

◆評価基準

- ① カリキュラム・ポリシーが明文化され、公表されている
- ② カリキュラム・ポリシーに適している教員組織となっている
- ③ カリキュラム・ポリシーに適した教育を行うためのFD活動が実施されている

◆自己点検評価（該当数字を○で囲む）

- ①: 基準を全て満たしている
- 2: 基準を概ね満たしている
- 3: 基準を満たしていない

◆自己点検評価結果の理由

- ①カリキュラム・ポリシーは、学生便覧及び本学HP上に明文化されたものが公表されている。
- ②大学設置基準を満たした教員組織となっている。また、本学で取得可能な資格・免許に関する養成課程はすべて学校・養成所指定規則等を満たしており、対人援助の専門職業人を養成することが可能な教員組織となっている。
- ③ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに基づく授業改善をはじめ本学の教育力の向上を目指したFD・SD活動として、以下の活動を行った。

令和3年度においてもピア・レビュー活動の一環として「授業の相互参観」を実施した。本年度においても covid-19 に対する感染拡大防止の観点から対面での授業参観ではなく、Google Classroom を活用した遠隔方式で、授業動画等授業資料の閲覧という形式で実施した。具体的には、「学びへの動機付け」と「アクティブラーニング」の2点をテーマとして、優れた授業を実践している教員を各学科から1名以上選出してもらい、各教員の授業動画やその解説、授業資料を Google Classroom から閲覧できるようにした。今年度設定したテーマは、毎年全教員から提出してもらっている授業評価アンケートに対するリフレクションの、3年分をデータとして分析した結果から設定した。つまり、「学びへの動機付け」と「アクティブラーニング」は、本学の教員が授業改善を行っていくために学修していく必要があると認識している課題であり、そうした観点から言えば本学の教員のニーズに基づくFD・SD活動の実施といえるものである。

また、3月には動画教材を用いてのFD・SD研修会を実施したが、このテーマも「アクティブラーニング」であり、本学の教員のニーズに基づくFD・SD活動の一環として位置付け実施した。

その他、定期的に取り組んでいるFD・SD活動としては、下記3点の活動を行った。まず、新任

教員を対象とした「オリエンテーション研修会」を4月に開催した。次に、学生による「授業評価アンケート」及び「授業評価アンケートに対するリフレクション」を前期、後期と、学期ごとに実施し、これらの学習活動に関するデータに基づき教授方法等、授業改善に努めた。3点目は、シラバス点検活動である。本活動は令和元年度からFD・SD活動の一環として位置づけて取り組んでいるものであり、活動の趣旨は、第三者によるシラバス点検を行うことによってより良いシラバス作りを行っていくことではあるが、下記2点の効果を目指した活動である。1点目は、他者の作成したシラバスを点検することによって、点検者自身がより良いシラバス作りの観点と方法を学習し、学科・専攻内の教員に対して助言可能な力量を形成すること。2点目は、学科内の開講科目の内容、方法、到達目標を理解することによって、カリキュラムに対する理解を深め、カリキュラムレベルにおける教育改善に繋げていくことである。

さらに令和3年度においては、毎年全学生を対象として実施している「教学実態調査」の結果を分析し、本学学生における学習活動の実態についての考察を行った。その結果、①授業外学習時間が少ない、②学習習慣が身に付いていない学生が多い、といった特徴が示された。一方で、講義等に真摯に取り組む学生の様子も見いだされていることから、学生の学習実態についてより詳細な調査を行うことで、授業外学習時間を中心とした学習行動の促進／抑制要因を検討し、改善につながる取り組みを検討することができると考えている。次年度以降に本学全学生を対象にして、学習行動に関する実態等について明らかにすることができる調査を計画している。

◆自己点検評価結果のエビデンス

1. 授業評価アンケート
2. 令和3年度「FD・SD研修会」実施記録
3. 令和3年度「授業相互参観」実施記録
4. 令和3年度「新任教員オリエンテーション研修会」実施記録
5. 令和3年度「シラバス点検」実施記録

◆自己点検評価結果における課題と対応

今後の課題は、学生の学修実態をエビデンスとしたFD・SD活動を実施する体制を構築していくことであるが、まずは学習行動に関する実態等について明らかにすることができる調査を実施していく。そして本調査結果から学習習慣の定着に関する要因を探り、学生が主体的に授業外学習時間を増加させていくことができる授業作りについて検討していく。今後はこれらの事項を中心としたFD・SD委員会における新生5ヵ年計画に基づき取り組んでいく。

基準Ⅱ-3	カリキュラム・ポリシーにおける評価・点検（事務局）
-------	---------------------------

◆評価基準

- ① カリキュラム・ポリシーが明文化され、公表されている
- ② カリキュラム・ポリシーに適している教育設備が整備されている
- ③ カリキュラム・ポリシーに適した教育を行うための教育設備整備計画が実施されている

◆自己点検評価（該当数字を○で囲む）

- ① 基準を全て満たしている
- ② 基準を概ね満たしている
- ③ 基準を満たしていない

◆自己点検評価結果の理由

①カリキュラム・ポリシー（以下CP）については、各学部・学科ごとに明文化され、学生全員に配付する「学生便覧」や、全てのステークホルダーが閲覧可能な「ホームページ」にも公表している。

②③教育設備の整備やメンテナンスについては法人本部が一括して管理しているが、事務局においてはCPに適した教育設備や環境が整備されるよう適切に計画を立案し、随時見直しを行っている。令和3年度においては、対面授業においてもICTを活用した授業が実施できる環境を整備するため、学生、教職員の一人ひとりが常時モバイル端末から接続できる全学的な無線LAN（Wi-Fi）サービスの提供を開始した他、教室においてアナログ仕様となっていた箇所についてデジタル化を実施し、最新機器との接続やプロジェクターの視認性の向上を図った。その他「教学実態調査」においても、学内施設や設備に関する意見や要望が寄せられており、その内容については法人本部と共有・連携を図り、充実や改善に役立っている。

◆自己点検評価結果のエビデンス

1. 「2021 学生便覧」

◆自己点検評価結果における課題と対応

これまでもICTを活用した情報機器等の導入などの整備を行ってきたところであり、これらの機器を活用し、教育環境の一層の充実をめぐる。また「ウィズコロナ・アフターコロナ」においても、「遠隔授業」の普及に伴い蓄積されたコンテンツを学生の自学自修に活用できる学内環境を提供するとともに、今後は平時の授業におけるICT活用についても検討を進めていく予定である。

基準Ⅲ-1	ディプロマ・ポリシーにおける評価・点検（入試委員会）
-------	----------------------------

◆評価基準

- ① ディプロマ・ポリシーが明文化され、公表されている
- ② ディプロマ・ポリシーに適している入学者選抜が実施されている
- ③ 入学者の追跡調査等により入学者選抜方法の妥当性が確認されている

◆自己点検評価（該当数字を○で囲む）

- ①: 基準を全て満たしている
- 2: 基準を概ね満たしている
- 3: 基準を満たしていない

◆自己点検評価結果の理由

<p>①ディプロマ・ポリシー（以下 DP）については、「大学案内」「ホームページ」において明文化し幅広く公表している。</p> <p>②DP に沿った人材を育成するためにカリキュラム・ポリシーが定められ、それに基づきアドミッション・ポリシー（以下 AP）が策定されていることから、入学者選抜においても面接試験を課す選抜では、将来の目標実現に結び付ける具体的なビジョンを確認するなど、DP に適した学生を受入れるための選抜方法を設定している。</p> <p>③AP においては高等学校で身に付けておくことが望ましい素養と履修すべき科目も明文化し、そこには DP で定めているコミュニケーション能力やその基礎となる語学力（国語力）を有していることとしている。これらの入学者選抜方法の妥当性を確認するため、入学者の追跡調査を行っている。</p>

◆自己点検評価結果のエビデンス

1. 入試種別毎の GPA 分布
2. 入試種別毎の単位取得状況
3. 入試種別毎の中退状況

◆自己点検評価結果における課題と対応

<p>DP については明文化し、公表についても幅広く周知している。入学後の追跡調査によると、2018 年度入学の入試種別毎の中退率・留年率では、ほぼ違いがなくなっている。</p> <p>今後、「退学しにくい学生」「国家資格を取得しやすい学生」の確保のためには、学力試験だけでなく、受験生本人の意欲にも着目した選抜方式が必要であり、更に「高校評定平均」に着目した選抜方式の学生募集戦略が有用であると考えます。</p>

基準Ⅲ-2	ディプロマ・ポリシーにおける評価・点検（教務委員会）
-------	----------------------------

◆評価基準

- ① ディプロマ・ポリシーが明文化され、公表されている
- ② ディプロマ・ポリシーに適している教育が実施されている
- ③ IR 情報を利用した教学マネジメントが実施されている

◆自己点検評価（該当数字を○で囲む）

- ①: 基準を全て満たしている
- 2: 基準を概ね満たしている
- 3: 基準を満たしていない

◆自己点検評価結果の理由

①本学は、教育理念である「自立と共生の心を培う人間教育」のもと「人間性豊かな幅広い知識を持った専門職業人」を育成することを教育目標としている。この教育目標は「ディプロマ・ポリシー」に反映され、学生便覧やホームページに明示している。

②単位の認定、卒業・修了要件については学則で定められており、適正に運用されている。成績評価、進級条件、キャップ制、GPA の活用も「大阪人間科学大学 履修方法等に関する細則」「大阪人間科学大学 試験及び成績評価に関する規程」「大阪人間科学大学 試験内規」に定められており、適正に運用されている。令和 3 年度は次年度からの 3 年次編入学生の既修得単位の認定についての科目分類の内訳を新カリキュラムに対応したものに改正した。また、令和 3 年度には教務委員会で、基礎科目及び全学部・学科の専門科目における学修成果に基づくカリキュラムツリーの作成を行った。各学部・学科の教育課程で、それぞれの授業科目でどのような学修成果が得られるのか、またその学修成果がディプロマ・ポリシーとどのように関連しているかを学生が理解できるものとした。また、各教員が学生への履修指導や学習システムの見直しにも活用できるものとなっている。

また、学生の経時的な変化を把握しながら 4 年後にディプロマ・ポリシーへ到達できる「OHS ポートフォリオシステム」（ディプロマサプリメント）についても導入 3 年目を迎え、順調に稼働している。

③IR 情報の活用の取組としては、令和 3 年度前期成績発表時より、年次別・学科別の GPA 分布図を公表することで、個々の学生が全体の中で自分自身の位置付けが確認できるよう学修状況の可視化を行った。

◆自己点検評価結果のエビデンス

1. 3学部と各学科・専攻の3ポリシー
2. 大阪人間科学大学 履修方法等に関する細則
3. 大阪人間科学大学 試験及び成績評価に関する規定
4. 大阪人間科学大学 試験内規
5. 令和3年度前期・後期成績評価についての基本指針
6. 大阪人間科学大学 OHS ポートフォリオ
7. GPA 分布状況表

◆自己点検評価結果における課題と対応

「OHS ポートフォリオシステム」(ディプロマサプリメント)については3年目を迎え、多くの情報が蓄積されている。これらの情報を活用して、学生の学修成果、学修状況の把握を行い、専門職業人としての能力の獲得に向けた教育改善と可視化する方法を検討していく必要がある。

基準Ⅲ-3	ディプロマ・ポリシーにおける評価・点検 (キャリア開発委員会)
-------	---------------------------------

◆評価基準

- ① ディプロマ・ポリシーが明文化され、公表されている
- ② ディプロマ・ポリシーに適している社会との接続が実施されている

◆自己点検評価 (該当数字を○で囲む)

- ①: 基準を全て満たしている
- 2: 基準を概ね満たしている
- 3: 基準を満たしていない

◆自己点検評価結果の理由

①について大学 HP、大学案内等に公開し、周知を図っている。また学生には新入生対象のガイダンスやオリエンテーション等の行事を通じて説明している。

②については、各学科・専攻の学びや専門性を活かした進路選択をする学生の割合が高く、社会に必要とされる人材を輩出していると言える。

◆自己点検評価結果のエビデンス

1. 就職率 97%
2. 専門職化率 社会福祉学科：87%、介護福祉専攻：100%、視能訓練専攻：100% 子ども教育学科：79%、言語聴覚専攻：100%、理学療法学科：100% ※専門職化率＝就職者のうち、資格を活かし専門職として就職した者の割合
3. 国家試験合格率 令和4年3月卒業者の各国家試験の合格率は以下のとおりである。 社会福祉士:64.9%(31.1%、52.4%)、精神保健福祉士:83.3%(65.6%、73.3%) 介護福祉士:88.9%(72.3%、72.3%)、視能訓練士:100%(91.8%、95.5%) 言語聴覚士:100%(75.0%、89.7%)、理学療法士:77.2%(79.6%、88.1%) ※カッコ内は 前：全国平均合格率、後：4大新卒平均合格率

◆自己点検評価結果における課題と対応

エビデンス 3 に記載の通り、各国家試験では理学療法士以外のすべての学科、専攻において全国平均合格率、4年制大学の新卒者合格率を上回る結果となった。令和4年度においては今年度同様全学科、専攻において4大新卒平均合格率を超えることを目標に国家試験対策を行っていくことと入学者数に対する国家試験合格率も同様に向上させることが課題である。

このコロナ禍において先輩学生との情報共有ができておらず、学習方法に苦慮している学生も多く、その対策として低学年からの国家試験対策の導入が不可欠である。

エビデンス一覧

基準	タイトル
基準Ⅰ	大学案内
	学生募集要項
	ホームページ
	令和４年度入試結果
基準Ⅱ-1	３学部と各学科・専攻の３ポリシー
	カリキュラムマップ
	カリキュラムツリー
	履修モデル
	シラバス
	学修ポートフォリオ（振り返りシート）
	「学修ポートフォリオ」等の利用状況調査
	G P A分布状況表
基準Ⅱ-2	授業評価アンケート
	令和３年度「FD・SD研修会」実施記録
	令和３年度「授業相互参観」実施記録
	令和３年度「新任教員オリエンテーション研修会」実施記録
	令和３年度「シラバス点検」実施記録
基準Ⅱ-3	「2021 学生便覧」
基準Ⅲ-1	入試種別毎のG P A分布
	入試種別毎の単位取得状況
	入試種別毎の中退状況
基準Ⅲ-2	３学部と各学科・専攻の３ポリシー
	大阪人間科学大学 履修方法等に関する細則
	大阪人間科学大学 試験及び成績評価に関する規定
	大阪人間科学大学 試験内規
	令和３年度前期・後期成績評価についての基本指針
	大阪人間科学大学 O H Sポートフォリオ
	G P A分布状況表
基準Ⅲ-3	令和３年度 卒業者就職率
	令和３年度 就職者専門職化率
	令和３年度 国家試験合格率

令和3年度
外部評価報告書

令和4（2022）年9月
大阪人間科学大学

外部評価委員

氏 名	職 名
はし おだに とも や 箸尾谷 知也	摂津市教育委員会 教育長

外部評価議事要旨

日 時：令和4年9月27日（火）13:00~14:00

場 所：摂津市役所 教育長室

出席者：

（評価員） 箸尾谷委員

（本 学） 吹井大学事務局長

藤田大学事務局長次長

1.令和3年度自己点検評価について

吹井大学事務局長から資料に基づき自己点検評価についての説明が行われ、意見交換の後、箸尾谷委員から、「特にカリキュラムツリーの整備等により、学生に対し学びの体系をわかりやすく示し、科目間の連携についての理解を促す取組みについては高く評価できる」との感想が述べられた上で、「大学において十分に自己点検評価が行われており妥当である」との外部評価を受けた。

以上